
シナカルセトから新規カルシウム受容体作動薬変更後のマグネシウムへの影響

(医) 衆和会 長崎腎クリニック、(医) 衆和会 長崎腎病院

○橋口純一郎 上野茉央 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【目的】

新規カルシウム受容体作動薬(エテルカルセチド・エボカルセト)の、マグネシウムに対する影響を検討する。

【方法】

二次性副甲状腺機能亢進症に対して、先発のカルシウム受容体作動薬(シナカルセト)投与中の患者 16 名をエテルカルセチド変更群 8 名とエボカルセト変更群 8 名に分けて、Mg 値・intact PTH・Ca・P・ALP 値を観察する。観察期間は 3 か月で、この間は併用するビタミン D 製剤やカルシウム製剤の投与量は変更しなかった。

【結果】

エテルカルセチド変更群では全経過を通して Mg 値に変化はなく、intact PTH 値は 3 か月後に変更前より有意に低下していた。エボカルセト変更群では、Mg 値は、1 か月後・3 か月後に有意に上昇していた。intact PTH 値は、1 か月後・3 か月後に有意に上昇していた。エテルカルセチド変更群もエボカルセト変更群も、PTH 変化量と Mg 変化量の間に関連関係は認めなかった。

【結論】

カルシウム受容体作動薬の製剤の違いで Mg 値に影響を与え方が違う可能性がある。